

防府市防災士等連絡協議会の活動を見学しました

2025 年 12 月 14 日、ルルサス防府で開催された「子ども防災キャンプ成果報告会」を見学してきました。



同協議会では、2024 年より、防府市内の 16 小学校区を、3～5 校区ずつにわけ、毎年順番に、子どもが主体的に運営する「防災キャンプ」を実施しておられます。

本年は、勝間、華城、華浦、佐波、牟礼の5小学校区の小学生を対象に、プログラムが実施されました。

防府は、2009 年の中国・九州北部豪雨で大きな被害を受けた地域。防災に関する色々な取り組みが進められる中、最終的には、防府の子どもたちを「守られる側から守る側に」という考えのもと、子どもたち自身の防災意識が向上するよう、また地域防災の担い手となれるように、活動に取り組んでいるとのことでした。

子どもたちが主体的に運営する「防災キャンプ」プロジェクト 目的

子ども達が、

- ① 地域とともに災害についての知識を学習し、災害発生時の対応方法を実習することで、
大人が近くにいる・いないに関わらず、災害から自分の未を守るよう適切に行動できる力を育てる。
- ② みんなで協力して防災活動に取り組む力を育てる。
- ③ 地域に関心を持ち、災害への備えの大切さを理解する。

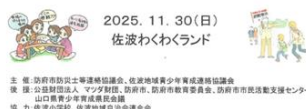
それぞれの地域で、大人と子どもが協力、創意工夫して防災プログラムを作り上げ、体験し、気づきを共有しておられました。

華浦

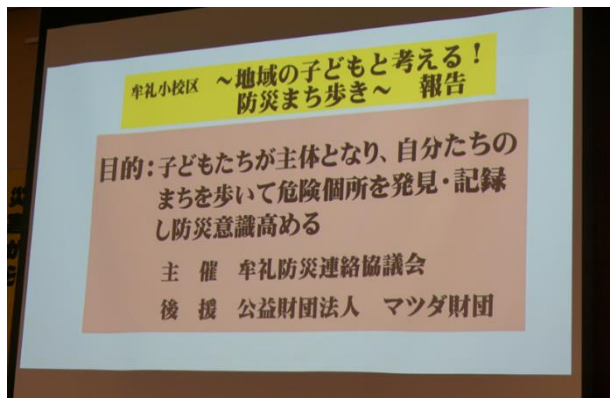


防災キャンプ SABA

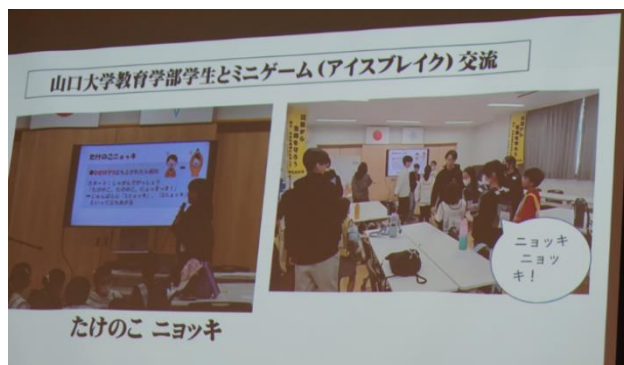
(子どもたちによる防災体験)



牟礼地区の場合



子ども 17 名、父兄、支援団体を含む総勢 70 名で、防災まち歩き、新しくできた公民館や消防署の見学、消防車両試乗体験、水消火器による消火訓練、ポリ袋調理で非常食の試食などを実施されました。



山口大学教育学部からも、准教授、学生さんを含め7名もの参加があり、子どもたちの緊張をとほぐし、円滑にコミュニケーションが進むよう、アイスブレイクを行ってくださったとのことでした。



プレゼンター：「まち歩きをしてどうでしたか？」

子ども：「危ないところ、直したほうがよいところについて話しました。大雨が出たとき、洪水になりそうは場所がありました。ガードレールは、錆びているところを新しく塗り直したほうが良いと思いました」



どの発表でも、子どもの防災意識を向上させるアイデア、大切な気づき、今後の課題などが報告されました。

・子どもに、避難所で無理難題を言ってくる大人にどう対応するか、ロールプレイ練習をしてもらった

(例:熱があれば救護室へ、など)

・各班で班旗を作り士気をあげつつ、ベッドやトイレの組み立て、スリッパづくり、など色々な体験活動を行った

・まち歩きをして、初めて気づいた看板がたくさんあった

(消火栓がどこにあるか、場所を示す「矢印」まであるとは知らなかった)

・認定された「子ども防災リーダー」に、今後、どう活躍の場を与えていくかも課題



消火栓の標識・矢印があるよ！



消火栓のマンホール



マップ作成

ペットボトルでランタンづくり

新聞紙でスリッパづくり

各地域でデザインが違います



終了証授与



防府市議会では、子ども防災士や防府市防災士等連絡協議会についての言及があり、同市防災の新たなステージに向けて、今後どう連携して防災の取り組みを行うか、といった話も進んでいるそうです。先日の青森県東方沖の地震をはじめ、日本列島のどこに、いつ災害が起こるかはなかなか予測が付きません。子どもも含め、地域ぐるみで、防災について考え、準備をしておくことの大切さを、改めて考えさせられた報告会でした。

防府市防災士等連絡協議会の皆さま、素晴らしい活動を見学させていただき、ありがとうございました！（竹岡）

ご参考： 昨年の「子ども防災キャンプ成果報告会」のレポートも併せてご覧ください。

<https://mzaidan.mazda.co.jp/news/2024/SJ/no54.pdf>